

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

OCTOBER
2025

10

昭和医科大学新聞 通巻 第627号
(偶数月発行)

学生からの寄稿 翠昭祭を開催

学生生活 クラブ活動報告



昭和医科大学
SHOWA Medical University

Student Life

翠昭祭を開催

クラブ活動報告

Press Release

左右腎の機能性・構造的なバランス調節機能の分子メカニズムを初解明！

腰痛による損失は1,000人あたり年約6,500万円!?
3人に1人が健康問題で労働生産性低下との研究調査
地域経済の持続的な成長・活性化に貢献するため
横浜銀行に産学官金連携コーディネータを委嘱

News & Topics

認定看護師教育センター開講式
学生後援会幹事会・総会
春期公開講座 オープンキャンパス・入試説明会
リカレントカレッジ特別企画(夏) ほか

Database

科学研究費助成事業採択課題一覧
入学試験要項

Meeting Report (学内会議報告)

Information



学生生活

翠昭祭(体育祭)を開催

6月28日、富士吉田キャンパスにて翠昭祭(体育祭)を開催した。

翠昭祭は「学生同士の交流を深め、仲間意識と協調性を育むこと」を目的に企画され、実行委員の学生を中心に、ゴールデンウィーク明けから当日までの約2か月、力を合わせて準備を進めてきた。

当日は、指導担任ごとのグループ(コンパ)でTシャツを作成し、8色のチームに分かれ、応援合戦、大縄跳び、借り人競争、綱引き、リレーなどが行われ、【青团】が見事優勝。結果発表の際には大きな盛り上がりを見せた。

後夜祭では、有志によるダンス発表や各コンテストの結果発表が行われ、寮生活の思い出に残るひとときとなった。

『翠昭祭(すいしょうさい)』の名称に込められた想い

今年度より新たに開催された学園祭「翠昭祭」には、以下のような意味が込められています。「翠」という字は「卒」と「羽」から成り、「卒」は「混じりけのない美しい様子」を意味します。このような「羽」を持つ鳥、すなわち「かわせみ」を象徴する漢字でもあります。訓読みでは「みどり」と読み、夏の季語である翡翠(かわせみ)や、草木を描写する際の美しい青緑色を表します。

この「翠」には、夏に開催される本祭との季節的なつながりや、生命力に満ちて羽ばたくイメージが重なります。また、青緑色は、ここ富士吉田の豊かな自然を思わせる色でもあります。さらに、「翠」は緑色の宝石「翡翠(ヒスイ)」にも使われる文字であり、「翠昭(すいしょう)」という響きは、透明感と輝きを持つ「水晶」をも連想させます。これにより、祭の名称には、上品で洗練された雰囲気が漂います。

「翠昭祭」という名には、自然の美しさ、季節との調和、そして学生たちの輝きと成長への願いが込められています。

支え合いの中で育まれた
かけがえのない経験

デジタル部門長
保健医療学部 看護学科 福島 さとみ

11人という少人数で多くの仕事を行ってきました。うまくいかず涙したことも部門員と笑顔で行った準備期間もすべてかけがえのない思い出です。初めて挑戦することも多く、どれも貴重な経験となりました。最後に常に支えてくれた部門員、至らぬ点多々ある中支え協力してくださった事務課の皆様、先生方には心から感謝しています。

周囲の助けがあつての
翠昭祭

物品管理部門長 薬学部 瀬川 奈央

物品管理部門長とテント講習会リーダーを通して、支える立場と支えられる立場の両方を経験し、周囲の存在の大きさに気づきました。辞めたいほど辛い時もありましたが、それでも最後まで頑張れたのは部門員、幹部、同部屋の仲間、友達、同じ学部の親友3人の支えがあったからです。皆さん、本当にありがとう！大好きです！

翡翠のように
煌めき続ける思い出

実行委員長 医学部 小峰 達也

翠昭祭の実行委員長を務めたことは、本当に楽しく、忘れたくない経験になりました。5月7日の実行委員長選挙から6月28日の翠昭祭本番まで、困難の連続ではありましたが、その中で支え合える仲間に出会えたこと、そして全学生の熱気に包まれたあの一日を共に過ごせたことは、かけがえのない宝物です。

翠昭祭の思い出は、夏の翡翠(カワセミ)のように煌めきながら、これからもずっと心に残り続けます。

第1回 翠昭祭



副実行委員長 医学部 中小原 快

第1回翠昭祭ということで、実行委員中心に意見を出し合い、前例踏襲にこだわらず一から作り上げました。分からないことも多く、たくさんの壁に直面しましたが、皆で協力して乗り越えました。辛いこともありましたが、当日学生が楽しそうにしている様子を見て、大満足です。支えてくださった方々のおかげで翠昭祭は成功いたしました。本当にありがとうございました。

協力する大切さを
学んだ翠昭祭

屋外部門長 薬学部 米澤 心優

企画書を作るのが想像していたよりも大変でしたが、やるからにはみんなに楽しんでもらえる翠昭祭にしようと思いました。準備をする中で先生方や部門員とコミュニケーションを取り協力する大切さを学びました。当日は想像以上の盛り上がりを見せ、周りの友達にも「楽しかった」と言ってもらえて、私にとっても最高の思い出となりました。本当にありがとうございました。

全力で駆け抜けた
翠昭祭

屋内部門長 薬学部 品川 絵麻

部門長の仕事は私の想像以上に大変なものでした。また、第1回翠昭祭ということもあり、昨年度の寮祭とはまた違った翠昭祭ならではの味を出すということに苦労しました。本番は屋外開催となったので屋内部門は実況や屋外部門のサポートといった形となりましたが、自分を含め学生の皆さんが全力で楽しんでいて、大変だった仕事をやり切ったよかったです心から思えました。貴重な経験ができたことに感謝しています！

初開催を彩る
一員として

装飾展示部門長 医学部 飯田 信矢

今年度が翠昭祭という形での初開催ということもあり、装飾展示部門としてどこまでの仕事を担うべきか試行錯誤しながらの活動でした。準備期間がかなり限られていたため、実際の制作時間も短く、効率よく作業を進める必要がありましたが、完成した看板が写真スポットとなり、多くの生徒の思い出づくりに貢献できたのがとても嬉しかったです。翠昭祭初代の一部門長として翠昭祭の成功に関われたことを誇りに思います。





学生生活

クラブ活動報告

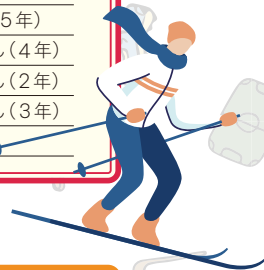
昭和医科大学では、たくさんのクラブが活躍しています!!
今年度、大学WEBサイト等で発信した記事を紹介します。
※掲載内容は情報発信時の内容となります。



医学部スキー部

Ski

第67回東日本医科学生総合大会 3月3日～10日 秋田県田沢湖スキー場		
男子GS	1位	康野 瑛嗣さん(3年)
	6位	中澤 寛基さん(2年)
男子SL	1位	康野 瑛嗣さん(3年)
第61回関東医科学生スキー選手権大会 3月17日～20日 長野県野沢温泉スキー場		
男子GS	1位	康野 瑛嗣さん(3年)
	2位	中澤 寛基さん(2年)
	4位	山崎 健斗さん(5年)
女子GS	5位	山下 舞さん(5年)
男子SL	1位	中澤 寛基さん(2年)
	2位	康野 瑛嗣さん(3年)
女子SL	5位	山下 舞さん(5年)
クロスカントリー(男子ショート8km)	4位	岡安 楽人さん(4年)
男子複合最優秀選手賞		中澤 寛基さん(2年)
アルペン最優秀選手賞		康野 瑛嗣さん(3年)
男子総合優勝		昭和大学



馬術部

Equestrian

第60回全日本医歯薬学生馬場馬術選手権 4月27日 JRA馬事公苑	
優秀選手賞	北山 天啓さん(歯学部4年) 堀 響希さん(歯学部4年) 北山 天啓さん(歯学部4年) 岩崎 賢志朗さん(歯学部4年) 堀 響希さん(歯学部4年) 高木 愛理さん(薬学部4年)
団体優勝	



小口勝司名誉部長に優勝報告



男子バスケットボール部

Basketball

令和7年度関東医歯薬バスケットボール春大会 5月10日～25日 山梨市民総合体育館 他	
総合成績	団体優勝
最優秀選手賞	石井 大介さん(医学部3年)
優秀選手賞	高橋 陽さん(医学部3年)



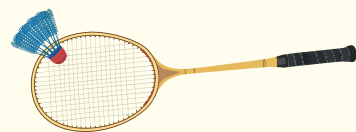
(右) 最優秀選手賞 石井 大介さん(医学部3年)
(左) 優秀選手賞 高橋 陽さん(医学部3年)



医学部歯学部バドミントン部

Badminton

関東歯科学生バドミントンリーグ春季大会 5月5日～6日 鶴見大学体育館		
女子団体戦	優勝	
女子ダブルス	優勝	五十嵐 舞さん(歯学部4年) 大野 華穂さん(歯学部4年)
男子ダブルス	準優勝	池上 和輝さん(歯学部6年) 吉野 達郎さん(歯学部4年)



医学部サッカー部

Soccer

2025年度関東医歯薬獣大学サッカー春季リーグ 4月12日～5月31日 防衛医科大学グラウンド他		
総合成績	2部リーグ優勝・1部リーグ昇格	
2部リーグ得点王	小倉 拓海さん(医学部3年)	



2部リーグ得点王に輝いた
小倉拓海さん(医学部3年)



漢方生薬研究会

Kampo medicine

第75回日本東洋医学会学術総会 6月6日～8日 京王プラザホテル	
登壇発表者	寺崎 佳帆さん(薬学部4年) 前間 愛瑠さん(医学部4年) 八木 倫子さん(医学部4年)
会頭賞	共同発表者 隠明寺 宥歩さん(歯学部4年) 辻 穂子さん(歯学部4年) 関根 愛珠さん(薬学部4年)



男子バレーボール部

Volleyball

2025年度春季医科リーグ 5月18日 信州大学松本キャンパス	
総合成績	準優勝
令和7年度春季関東医歯薬大学バレーボール大会1部 6月22日 千葉大学猪鼻キャンパス	
総合成績	優勝





Press Release

昭和医科大学では最新の研究結果を外部（マスメディア）に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

※掲載内容はリリース時の内容となります。

左右腎の機能性・構造的なバランス調節機能の 分子メカニズムを初解明！



昭和医科大学の川西邦夫教授（医学部解剖学講座顕微解剖学部門、研究当時：筑波大学医学医療系）、神戸大学医学部附属病院 腎・血液浄化センターの坂本和雄特定助教（研究当時：筑波大学医学医療系人間総合科学研究科生命システム医学専攻）らの共同研究グループは、左右の腎臓のうち片側だけに障害を誘導することのできる独自のマウスモデルを開発した。これを用いて「左右の腎臓が機能性・構造的なバランスを保とうとする現象（腎カウンターバランス）」の分子メカニズムを初めて明らかにした。

■概要

腎臓は左右一対の臓器であり、一方の腎機能が低下すると、他方が代償的に働きを高めることが知られており、このような左右間の動的なバランス調節は、「腎カウンターバランス」と呼ばれている。しかしながら、そのメカニズムは長年不明であった。

本研究では、マウスの糸球体足細胞（腎臓の糸球体表面の上皮細胞）に選択的な障害を与え、片側の腎臓のみに足細胞障害を誘導する2K1Nモデル（two-kidney, one-nephropathy）を開発した。このモデルでは、障害腎への血流が時間の経過とともに著しく低下し、障害腎由来の蛋白尿は消失した。そして、健常側の腎臓が代償的に機能を担い、全身の水バランスや血圧が維持されていた。一方、両側の腎臓に同等の障害を負わせた2K2Nモデルでは、血流の不均衡が認められず、全身性の浮腫や蛋白尿が悪化した。

この2K1Nモデルを用いて、腎臓内の遺伝子発現と分子レベルの変化を詳しく調べた結果、障害を受けた腎臓と健常な腎臓とで血圧を上昇させるホルモンであるAngⅡの産生量が顕著に異なり、この局所的なAngⅡの不均衡が、障害腎の血流低下と糸球体虚脱を引き起こすことが明らかになった。

これらの結果から、左右の腎臓が互いに影響を及ぼし合いながらバランスを取ろうとする中で、そのバランスが崩れることが、腎疾患の進行に深く関与していることが示唆された。

【研究代表者】

・筑波大学医学医療系
坂本 和雄 人間総合科学研究科生命システム医学専攻（研究当時、現：神戸大学医学部附属病院 腎・血液浄化センター 特定助教）
川西 邦夫 助教（研究当時、現：昭和医科大学医学部解剖学講座顕微解剖学部門 教授）

・筑波大学生存ダイナミクス研究センター
金 俊達 助教（研究当時、現：富山大学 和漢医薬学総合研究所 研究開発部門 複雑系解析分野 准教授）
・東海大学 医学部 医学科生体構造機能学
松阪 泰二 教授

■研究の背景

慢性腎臓病は、加齢、高血圧、糖尿病、糸球体腎炎など多様な要因によって発症し、進行すると腎機能が不可逆的に低下し、透析や腎移植といった腎代替療法が必要となる。世界的に重大な健康問題となっており、日本国内でも末期腎不全の患者数は年々増加している。近年では、急性腎障害から慢性腎臓病への進展メカニズムの研究が進み、早期診断と介入の重要性が認識されつつある。

腎臓疾患の研究では、従来、一側性（片側にのみ生じる）の尿管閉塞（逆流性腎障害）^{（※1）}や一側性虚血再灌流障害^{（※2）}といった、主に尿管細管間に障害を与える動物モデルが用いられてきた。これらのモデルは技術的に安定しており、慢性障害の再現性にも優れているが、尿管障害を中心とした病態を反映しているため、糸球体（血液をろ過する組織）に起因する病態や、左右の腎臓が互いに影響し合う「システム」としての腎疾患メカニズムを明らかにするには限界があるとされてきた。

本研究では、新たなマウスモデルを開発し、左右のうち一方の腎臓が障害を受けた際に、障害を受けた腎臓では血流の低下と構造的な萎縮が進行し、反対側の腎臓が代償的に機能亢進・肥大を示す、といった左右の腎臓間での非対称的な適応現象（腎カウンターバランス）^{（※3）}のメカニズム解明に取り組んだ。この現象は、単なる「片腎の肥大」ではなく、二つの腎臓が互いに「競合」しながら全体の腎機能の均衡を保とうとする精緻な生理的ネットワークとして理解されている。

■研究内容と成果

本研究では、糸球体の足細胞^{（※4）}特異的にヒトCD25を発現するNEP25マウス（ネフローゼ症候群モデル）^{（※5）}を用い、CD25に対する免疫トキシンLMB2を投与することで、足細胞障害（グロメルロパチー）を片側の腎臓にのみ生じさせることのできる2K1Nマウスモデルを作製した。この2K1Nモデルでは、障害腎における腎血流が時間依存的に低下し、健常腎では代償性の安定化がみられた。一方、両側に同等の障害を負わせた2K2Nモデル

では血流の不均衡が認められず、全身性の浮腫や蛋白尿が増悪した。これにより、左右の腎臓間での機能的競合とその不均衡が、腎疾患の進展に大きく関与することが示された。

また、2K1Nおよび2K2Nモデルについて、トランスクリプトーム（RNA-seq）解析^{（※6）}および分子生物学的手法で詳しく調べたところ、血圧を上昇させるホルモンであるAngⅡ（アンジオテンシンⅡ）^{（※7）}の生成に関わるタンパク質分解酵素Ren1（レニン）^{（※8）}発現の左右差が明らかとなり、腎AngⅡの発現量も障害腎側で顕著に増加していた。これに対し、アンジオテンシン変換酵素阻害薬を投与すると、血流低下と糸球体病変が改善され、局所的なAngⅡの調節が腎カウンターバランスの正常化に寄与することが示唆された（参考図）。

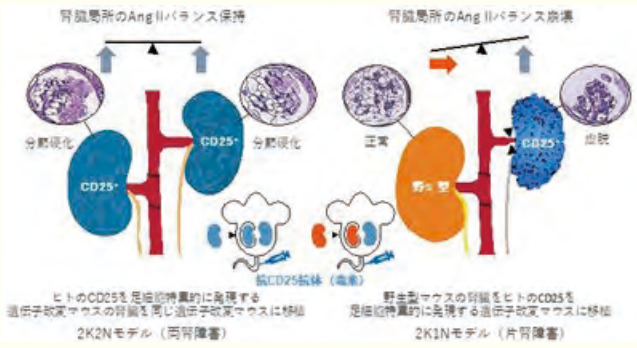
■今後の展開

本研究は、これまで尿管細管間質障害モデルが使われてきた慢性腎疾患研究に対して、糸球体の病変に着目した新たな実験モデルを提供するもの。今回構築した2K1Nモデルは、2つある腎臓のうち一方だけに糸球体障害を選択的に誘導することが可能で、もう一方の健常腎との比較によって、腎臓同士がどのように影響を与え合っているか、すなわち腎カウンターバランスの動態を詳細に解析できる点が大きな特徴である。このモデルにより、

リリース時タイトル／左右の腎臓が互いに機能のバランスを調節するメカニズムを解明

用語解説／

- ※1 一側性の尿管閉塞（逆流性腎障害）：片側の尿管を閉塞することにより、片側の腎臓に慢性的な尿路うっ滞を生じさせる実験モデル。主に尿管細管間質障害を再現するために広く用いられる。繊維化や炎症反応、酸化ストレスなど、慢性腎疾患の進展に関与する経路の解析に適している。
- ※2 一側性虚血再灌流障害：腎臓の血流を一時的に遮断した後に再灌流させることで酸化ストレスや炎症を誘導するモデル。主に急性腎障害から慢性腎疾患への移行過程のメカニズム解析に用いられる。障害の主体は尿管である。
- ※3 腎カウンターバランス：左右の腎臓間における非対称な適応応答。片側の腎臓に障害が生じると、健常側が代償的に機能亢進や肥大を示す一方、障害側では血流低下や萎縮が進行する。1923年にFrank Hinmanにより提唱された概念で、両腎が競合的に腎機能の均衡を保とうとする生理的機構とされる。
- ※4 足細胞：腎臓内の糸球体（血液ろ過バリア）の最外層に位置する特殊な上皮細胞。細長い突起（足突起）が糸球体基底膜に沿って配置されている。障害されると糸球体ろ過構造が破綻し、蛋白尿などネフローゼ症候群の原因となる。
- ※5 ヒトCD25を発現するNEP25マウス（ネフローゼ症候群モデル）：糸球体の足細胞にヒトCD25（インターロイキン-2受容体α鎖）を特異的に発現する遺伝子改変マウス。このマウスに対して、ヒトCD25に特異的な免疫トキシンを投与することで、足細胞が選択的に障害され、短期間でネフローゼ症候群様の病態（高度蛋白尿、浮腫、糸球体障害など）が誘導される。糸球体疾患、特に足細胞障害に起因する腎疾患の発症機構や治療介入の評価において広く用いられる。
- ※6 トランスクリプトーム（RNA-seq）解析：細胞や組織における全転写産物（RNA）の発現量を網羅的に解析する手法。発現変動遺伝子の同定やパスウェイ（遺伝子の相互作用）解析を通じて、病態に関わる分子機構の解明が可能となる。
- ※7 AngⅡ（アンジオテンシンⅡ）：血管収縮作用、ナトリウム再吸収促進、炎症や繊維化の誘導など、腎機能制御と病態形成の両面に関与するタンパク質。特に腎臓局所でのAngⅡの過剰は、糸球体病変の進行要因となる。



2K1Nおよび2K2Nモデルにおいて、ヒトCD25を足細胞に発現する遺伝子改変マウスに抗ヒトCD25免疫トキシンを投与することで、選択的に糸球体障害を誘導可能なネフローゼモデルを作製した。2K2Nモデル（両腎障害、左図）では尿蛋白の増加と糸球体硬化が顕著であり、腎臓局所でのAngⅡ産生の亢進と一致した。一方、2K1Nモデル（片腎障害、右図）ではAngⅡの産生に左右差が生じ、障害腎側での過剰なAngⅡ上昇が腎血流の低下および糸球体虚脱の進行と関連した。これにより、AngⅡの非対称な局所活性化が腎カウンターバランスの一因となる可能性が示唆された。

腎動脈狭窄や片腎摘出後の代償反応など、一側性腎疾患に特有の病態進展の仕組みの解明や、腎移植患者において、もともとの病気の腎臓と新たに移植された健康な腎臓との間に生じるカウンターバランス関係を分子レベルで明らかにすることが可能となる。今後さらに、局所的なAngⅡの調節機構の解明やその治療的制御を含む、臨床応用への橋渡し研究を進める予定。

※8 Ren1（レニン）：腎臓の顆粒細胞で分泌され、アンジオテンシンノーゲンからAngⅠを生成する酵素。Ren1はマウスのレニン遺伝子であり、局所レニン-アンジオテンシン系活性の指標として用いられる。

研究資金／本研究は、日本学術振興会 科学研究費補助金（JP25K19492・JP17K09685）、科学技術振興機構（JST）START 大学発新産業創出タイプ（JPMJST2052）、日本医療研究開発機構（AMED-CREST）（JP21gm1410010）の支援を受けて行われました。

論文名／A Novel Glomerulopathy Model Demonstrates Renal Counterbalance via Local AngiotensinⅡ Regulation（新規糸球体腎症モデルを用いた腎局所アンジオテンシンⅡによる腎カウンターバランス制御機構の解明）

著者／Kazuo Sakamoto **1** **3**, Kunio Kawanishi **1** **2** **3**, Jun-Dal KIM **4** **5** **6**, Masahiro Koizumi **7**, Shin-ichi Muroi **4** **6**, Saori Tabara **5**, Akiyoshi Fukamizu **5** **6**, Taiji Matsusaka **7**, and Michio Nagata **1**

1 筑波大学 医学医療系 腎・血管病理学
2 筑波大学 医学医療系 実験病理学
3 昭和医科大学 医学部 解剖学講座 顕微解剖学部門
4 富山大学 和漢医薬学総合研究所 研究開発部門 複雑系解析分野
5 筑波大学生存ダイナミクス研究センター（Tsukuba Advanced Research Alliance: TARA）
6 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）CRESTプログラム
7 東海大学 医学部 基礎医学系 生体機能学領域
8 神戸大学医学部附属病院 腎・血液浄化センター

掲載誌／*Proceedings of the Japan Academy, Series B*（日本学士院紀要B）

掲載日／2025年6月20日（オンライン先行公開）

DOI／10.2183/pjab.101.025

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 医学部 解剖学講座 顕微解剖学部門 教授（兼 筑波大学 医学医療系 非常勤研究員 川西 邦夫（かわにし くにお） TEL：029-853-3944 E-mail：kukawanishi@md.tsukuba.ac.jp URL：https://www.md.tsukuba.ac.jp/epatho/index.html

腰痛による損失は1,000人あたり年約6,500万円!? 3人に1人が健康問題で労働生産性低下との研究調査



昭和医科大学（東京都品川区／学長：上條由美）の吉本隆彦准教授（医学部衛生学公衆衛生学講座衛生学公衆衛生学部門）、小風暁教授（同）らの研究により、全国の就業者1万人への調査で、約3人に1人が健康問題によって仕事の生産性が低下している実態が明らかになった。最も多かった要因は腰痛で、年間の生産性損失は1,000人あたり約6,500万円にのぼると試算された。本研究成果は、国際学術誌「Journal of Occupational and Environmental Medicine」（2025年4月号）に掲載された。今後、企業の健康経営推進や産業保健政策の検討に活用されることが期待される。

■研究の背景・目的

働き方の多様化や高齢労働者の増加が進む中、労働者の健康状態が仕事のパフォーマンスに与える影響が注目されている。近年は、欠勤（アブゼンティズム）だけでなく、健康問題を抱えながら働き続けることで生産性が低下する「プレゼンティズム」が、企業の経済的損失につながる重要な課題とされている。これまでの研究はCOVID-19以前に実施されており、パンデミックを契機にライフスタイルや働き方が変化したポストコロナ時代の実態は十分に明らかになっていなかった。本研究では、全国の就業者1万人を対象に調査を行い、健康問題と労働生産性の関係について分析した。

■研究内容および成果

本研究は、吉本隆彦准教授（昭和医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座衛生学公衆衛生学部門）、小風暁教授（同）、松平浩医学博士（テラーメイド腰のクリニック）らの研究チームが、日本人労働者におけるプレゼンティズム（出勤していても健康問題によりパフォーマンスが低下している状態）の実態と、それに起因する経済的損失を明らかにすることを目的に実施したもの。

2023年2～3月に全国20～69歳の就業者1万人を対象としたインターネット調査を実施した。質問票では、過去4週間において仕事に影響を及ぼした健康問題の有無や具体的な症状、仕事への影響度合い（パフォーマンスの低下）などを尋ねた。

回答者の約3分の1が何らかの健康問題で仕事の質・量が低下しており、腰痛・首肩こり・メンタルヘルスが主因だった。損失額は最大要因である腰痛で年間約6,480万円/1,000人と試算され、経営上無視できない“隠れたコスト”が明らかになった。本研究は、厚生労働科学研究費補助金により実施され、研究成果は国際学術誌「Journal of Occupational and Environmental Medicine」2025年4月号に掲載された。

■研究成果のポイント

1. 全国1万人調査で、35.6%の労働者が過去4週に仕事へ影響を与える健康問題を経験。
2. 最大の要因は腰痛で、1,000人あたり年間約6,480万円（48.8万USD）の経済損失。首の痛み・肩こり約4,600万円、メンタルヘルス不調約4,340万円と続く。
3. 20代ではメンタルヘルス不調、30代では首の痛み・肩こり、40代以降では腰痛が最も多い健康問題。
4. 企業の生産性向上には、メンタルヘルス対策に加え、腰痛・肩こり対策の導入が急務。

■社会的意義

- ・人手不足が深刻化するポストコロナ時代において、生産性確保は企業の最重要課題。
- ・「健康経営」の分野でもプレゼンティズムは、欠勤と並んで注目される重要な健康指標であり、これまで見過ごされてきた「働きながらの生産性低下」に着目した対策が求められている。
- ・健康経営の投資対象を“可視化”することで、エビデンスに基づく適切な腰痛・肩こり予防プログラムの導入を後押しする。

■吉本隆彦准教授のコメント

腰痛や肩こりは当たり前の不調と軽視されがちだが、企業にとっては大きな経済的損失を招く可能性がある。生活習慣病やメンタルヘルスへの対策と同様に、腰痛や肩こりへの適切な対策を“生産性を高め、働き続けるための基盤”として捉える必要がある。しかしながら、腰痛や肩こりへの対策の現状は、個人任せになりがちである。労働生産性へのインパクトが最も強いことを鑑みると、企業にとって標準的に実施すべき対策とすることが望まれる。

リリース時タイトル／日本人労働者3人に1人が仕事に支障をきたす健康問題を抱えながら出勤 ― 最大要因である腰痛による生産性損失は、1,000人あたり年間約6,500万円との試算も

論文名／Presenteeism Caused by Health Conditions and Its Economic Impacts Among Japanese Workers in the Post-COVID-19 Era

著者／Takahiko Yoshimoto, Ko Matsudaira, Hiroyuki Oka, Satoshi Kasahara, Akatsuki Kokaze, Shinsuke Inoue

掲載誌／*Journal of Occupational and Environmental Medicine* 67 (4): e227–e232, 2025

DOI／10.1097/JOM.00000000000003319

本件に関する問い合わせ先／昭和医科大学 医学部衛生学公衆衛生学講座衛生学公衆衛生学部門 准教授 吉本 隆彦 TEL：03-3784-8134 E-mail：yoshimotot@med.showa-u.ac.jp

地域経済の持続的な成長・活性化に貢献するため 横浜銀行に産学官金連携コーディネータを委嘱



昭和医科大学（東京都品川区／学長：上條由美）は、地域経済の持続的な成長・活性化に貢献するため、地方自治体、地元産業界、ならびに地元金融機関と協力して産学官金連携の取り組みを推進している。このたび、共同研究のマッチング等を目的として横浜銀行（代表取締役頭取：片岡 達也）に「昭和医科大学 産学官金連携コーディネータ」を委嘱することとなった。

7月4日、昭和医科大学旗の台キャンパスにおいて産学官金連携コーディネータ委嘱式が行われた。三邊武彦統括研究推進センター長から挨拶の後、肥田典子統括研究推進センター副センター長から昭和医科大学における研究活動に関する研修として、大学紹介や研究戦略の説明、研究活動の特徴や強み、産学連携の事例等の説明を行った。研修終了後、三邊統括研究推進センター長から横浜銀行の18名の方一人ひとりに産学官金連携コーディネータの委嘱状を交付した。

昭和医科大学は、2024年9月に、地域経済の持続的な成長・活性化に貢献するため、横浜銀行と包括連携協定を締結し、医療・ヘルスケアに関する課題解決ニーズのある企業様を紹介していただく等の取り組みを進めている。

今回、本学の強みや研究活動を熟知する横浜銀行に企業との橋渡し役を担っていただくことで、これまで以上に大学と企業の希望や条件に合ったマッチングを実現できるようになる。



1 横浜銀行の産学官金連携コーディネータと三邊武彦統括研究推進センター長、肥田典子統括研究推進センター副センター長らとの集合写真 **2** 研修の様子

リリース時タイトル／横浜銀行に産学官金連携コーディネータを委嘱

関連記事／学校法人昭和大学が株式会社横浜銀行と包括連携協定を締結
<https://www.u-presscenter.jp/article/post-54437.html>

本件に関する問い合わせ先／学校法人昭和医科大学 統括研究推進センター 創造研究支援部門 E-mail：sangaku@ofc.showa-u.ac.jp

as human for human
PARAMOUNT BED

あなたには眠りやすい角度がある。
「入眠角度」という新提案。

ベッドが動けば、眠りは変わる。
Active Sleep
BED

パラマウントベッド株式会社
東京支店 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号

www.paramount.co.jp
☎(03)3648-1171(代)

日本調剤

全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場）は、全国 47 都道府県で 700 以上の調剤薬局を展開している企業です。

2025.6.2

認定看護師教育センター開講式
5つの専門領域での高度看護を目指して

6月2日、令和7年度昭和医科大学認定看護師教育センター開講式を上條記念館で挙行し、手術看護分野16名、腎不全看護分野20名、認知症看護分野13名、感染管理分野8名、クリティカルケア分野21名の計78名が入学した。

同センターは、専門領域の看護技術と知識を備え、質の高い医療を提供するマネジメント能力を有した看護師を育成し、高度な看護実践ができる認定看護師として社会に貢献することを目的に令和2年度に設置され、本年度で6期生を迎える。

小口勝司理事長は祝辞で「大学の理念は、社会に貢献する優れた医療人の育成です。皆さんには、さらに専門性を高め、新しい看護文化を築く担い手として成長していただきたいと願っています。少子高齢化が進む中、看護の在り方も変化が求められています。今までの枠を超え、自ら考え行動できる力を養ってください。皆さんの挑戦を心から応援し、ご活躍をお祈り申し上げます」と述べた。

三村洋美認定看護師教育センター長は挨拶で「初日は緊張もあるかと思いますが、78名全員が無事に修了できるよう、共に支え合って頑張りましょう。昭和医科大学認定看護師教育センターで



1 記念撮影 2 式辞：上條由美学長
3 挨拶：三村洋美認定看護師教育センター長

は、5つの専門分野で一流の教育を提供します。特定行為研修を含むB課程は非常に密度が高いですが、私たち教員が全力でサポートします。皆さんには、技術だけでなく、チーム医療の中での役割や指導力も期待されています。新しい地域医療構想を支えるリーダーとして、ぜひ成長してください。困ったときは仲間や教員に遠慮なく相談し、認定看護師としての道を一緒に歩んでいきましょう」と述べた。

閉式後、教員紹介や分野別オリエンテーションを実施した。

2025.6.14

保護者と教育職員が一堂に会す
学生後援会幹事会・総会を開催

6月14日、令和7年度昭和医科大学学生後援会幹事会・総会を上條記念館で開催し、医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部学生の保護者約460名が出席された。

本総会は、2025年4月に、旧名称である「父兄会」から「学生後援会」に変更して以来、初めての開催となった。

総会は美島健二学生後援会長と学生後援会名誉会長である上條由美学長の挨拶で始まり、前年度の決算報告や今年度予算および事業計画、役員交代についての議案説明があり、全ての審議事項について承認された。

総会終了後は、各学部に分かれて部会が開催され、カリキュラムや学生生活など、さまざまな事項について、学部長をはじめとする担当教育職員から説明された。

各部会終了後、地下1階富士桜（バンケットルーム）にて懇親会が行われ、教育職員も交えて、保護者の方同士で親睦を深め



1 歯学部部会
2 アジサイを
配布する様子
3 総会の様子



ていただいた。

懇親会終了後、上條講堂に咲いていたアジサイを本学の公認サークルである江東ガーデニングサークルが花束にして、希望者に配布した。

2025.5.10～6.15

「暮らしと健康」をテーマに
春期公開講座を開講

春期公開講座を5月から6月にかけて各施設で開講。各講演終了後には、参加者から多数の質問があり、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。次回の昭和医科大学公開講座は秋期の開催を予定している。

旗の台キャンパス

開催日程	5月10日	参加者数	146名
テーマ	暮らしと健康 ～最新の医療について～		
講演内容	「ダビンチ・ヒノトリによるロボット支援下手術と安全性向上への工夫」 渡邊 良平（医学部 外科学講座消化器一般外科学部門 講師）		
	「蛍光イメージング技術と人工知能技術を駆使した最新消化器外科治療」 田代 良彦（医学部 外科学講座消化器一般外科学部門 講師）		
	「歩行再建を目指した最先端のリハビリテーション～ロボット技術の応用～」 川手 信行（医学部 リハビリテーション医学講座 教授）		

横浜キャンパス

開催日程	6月15日	参加者数	35名
テーマ	暮らしと健康 お子さんのちょっと気になる行動のあれこれ		
講演内容	「お子さんのちょっと気になる行動のあれこれ」 増山 英理子（リハビリテーション学科 作業療法学専攻 准教授）		
	「ホースセラピー ～馬が介在する作業療法と感覚統合療法～」 千賀 浩太郎（リハビリテーション学科 作業療法学専攻 講師）		

横浜市北部病院

開催日程	5月24日	参加者数	61名
テーマ	暮らしと健康		
講演内容	「肺がん治療の進歩～免疫チェックポイント阻害薬からロボット支援下手術まで～」 北見 明彦（呼吸器センター 教授）		
	「不眠症（睡眠障害）の対応の仕方」 稲本 淳子（メンタルケアセンター 教授）		

連携・貢献 地域・一般



1 旗の台キャンパス公開講座 2 横浜市北部病院公開講座
3 江東豊洲病院公開講座 4 富士吉田キャンパス公開講座 5 横浜キャンパス公開講座

富士吉田キャンパス

開催日程	5月31日	参加者数	72名
テーマ	暮らしと健康		
講演内容	「呼吸の力で整えるところからだ」 本間 生夫（昭和医科大学 名誉教授／NPO安らぎ呼吸プロジェクト 理事長）		
	「道端で楽しむ野草～ウォーキングをもっと楽しく～」 谷亀 高広（富士山麓自然・生物研究所 講師）		

江東豊洲病院

開催日程	6月7日	参加者数	112名
テーマ	暮らしと健康 お尻と骨盤の異変に気付く！正しい知識と最新治療—骨盤臓器脱（子宮脱）と脱肛（内痔核）を中心に—		
講演内容	「骨盤臓器脱の最新治療—身体に優しい低侵襲手術を目指して—」 石川 哲也（産婦人科 准教授）		
	「お尻から何か出る!?—脱肛・直腸脱の正体と対策—」 田邊 太郎（消化器外科 助教）		

講演・発表 医学部

「日本病院総合診療医学会雑誌」に
症例報告論文掲載

論文名	「妊娠糖尿病の合併により羊水過多の鑑別としてApert症候群の想起が困難であった一例」
掲載誌	日本病院総合診療医学会雑誌 (21巻第3号, 101-105, 2025)
著者	伊東ななみ（当時：医学部6年）



伊東ななみさん

講演・発表 保健医療学部

「Cureus」に症例報告掲載

論文名	Left-Leg Apraxia and Bilateral Incoordination of the Lower Limb After Left Anterior Cerebral Artery Infarction: A Case Report
掲載誌	Cureus
著者	Airi Kitamura, Hiroyuki Ohtsuka, Miku Aoyagi, Maho Noguchi, Naoyuki Motojima, Kana Sakuma, Tetsuichi Hondera, Mika Otsuki



（左から）北村愛理さん（当時：保健医療学部4年）、大塚裕之講師

新たに開設される学科・専攻に特化 保健医療学部オープンキャンパス

5月24日、保健医療学部の新学科・新専攻および作業療法学専攻に特化した病院見学型のオープンキャンパスを昭和医科大学病院、藤が丘リハビリテーション病院にて開催し、9組17名が参加した。

はじめに鈴木久義保健医療学部長から挨拶があったのち、各専攻について、医療現場で活躍しているスタッフから紹介が行われた。その後、職場見学として、実際の医療現場を見学し、専門職の役割や学びの内容について理解を深めていただく貴重な機会となった。参加者からは「雰囲気がよく、手厚く教えていただきとてもよかった」といった感想のほか、多数の質問が寄せられ、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。

また、8月30日には歯科病院を含む3施設で同様のオープンキャンパスを開催し、62組107名が参加した。



本学では、創立100周年記念事業の一つとして保健医療学部 に新学科・新専攻の開設を予定している。2027年4月1日付けで、リハビリテーション学科に、新たに言語聴覚療法学専攻と視覚機能療法学専攻の2専攻を加え、併せて医療技術学科を新設し、診療放射線技術学専攻、臨床工学専攻、歯科衛生学専攻の3専攻の開設を計画している。

各学部でオープンキャンパス・ 入試説明会を開催

5月から7月に各キャンパスでオープンキャンパスを開催し、多くの方々に本学への理解を深めていただいた。

医学部（7月13日） 医学部オープンキャンパスを上條記念館にて開催し、540組980名が参加した。

オープンキャンパスでは、医学部教育や令和8年度入試についての説明や、富士吉田教育部での学生生活紹介、教育職員による個別相談会や在学生のフリートークなどが行われた。

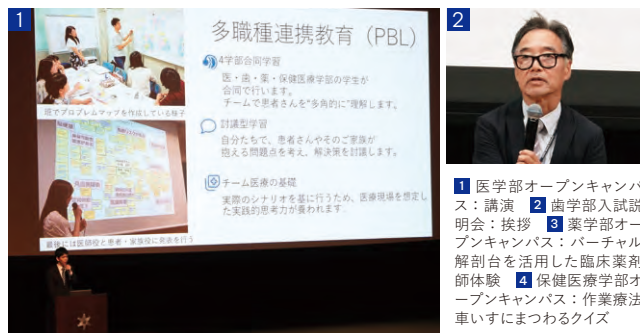
また、救急医療研究部によるBLS（一次救命措置）体験や、新カリキュラムの成果を紹介するジャーナルクリエーション・クリニカルプレゼンテーションに加え、外部講師による入試対策講座なども併せて開催した。

歯学部（7月12日） 歯学部入試説明会を上條記念館にて開催し、178組320名が参加した。

全体説明会では、馬場一美歯学部長の挨拶に続き、歯学部の特色や国家試験対策、2026年度入学試験等についての説明が行われた。また、先輩からのメッセージとして、在学生3名が合格までの道のりと実際の学生生活について体験を語った。

薬学部（5月24日） 薬学部フレッシュオープンキャンパスを旗の台キャンパスにて開催し、83組143名が参加した。

教育職員・在学生による個別相談や旗の台ミニキャンパスツアー、バーチャル解剖台を活用した臨床薬剤師体験などが行われた。また、薬学部の特色や2027年4月1日に開設予定の新キャンパスについての説明会も併せて行われた。



保健医療学部（6月22日） 保健医療学部オープンキャンパスを横浜キャンパスにて開催し、245組466名が参加した。

オープンキャンパスでは、大学や入試についての全体説明会や、クラブ活動・富士吉田教育部での寮生活紹介、在学生・教育職員による個別相談会などが行われた。

また、スキルスラボ室での模擬授業、各学科・専攻の学生と教育職員による企画や体験コーナーに加え、新学科・新専攻の教育職員が主催した合同説明会なども併せて開催された。

看護業績賞表彰式を举行 優れた業務・研究業績を讃える

6月23日、令和6年度附属病院看護業績賞表彰式を旗の台校舎で執り行った。本賞は業務業績・研究業績が優秀と認められた看護職員に授与される。業務業績5件、研究業績4件が認められ、小口勝司理事長より賞状、小出良平総括病院担当理事から記念品が手渡された。

受賞内容は以下のとおり。（所属・役職は選考当時のもの）

業務業績（看護研究会）

所 属 名	昭和医科大学病院	団体名	腫瘍センター看護師
受賞内容	業務改善とタスクシフトによる職場満足度の向上		
所 属 名	昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院	団体名	4階病棟
受賞内容	身体拘束最小化に向けた取り組み		

業務業績（専門看護師・認定看護師研究会）

所 属 名	昭和医科大学横浜市北部病院	受賞者	次長/専門看護師/認定看護師 佐々木 舞子
受賞内容	身体拘束中の高齢患者を対象とした 身体症状・苦痛に対する看護ケア実践		
所 属 名	昭和医科大学病院	受賞者	係長/専門看護師/臨床教員 佐藤 陽子
受賞内容	指導方法の見直しと産後抑うつの評価を活用した保健指導の実践		
所 属 名	昭和医科大学藤が丘病院	受賞者	係長/認定看護師 富田 和也
受賞内容	アセスメント強化・向上による皮膚障害リスク患者の 失禁関連皮膚障害予防の取り組み		

奮励の夏を迎える学生たちへ 夏季スポーツ大会壮行会を開催

7月7日、昭和医科大学上條記念館にて「第28回夏季スポーツ大会壮行会」を開催した。

各スポーツ大会に向けての士気を高める場として、壮行会に先立ち講演会が行われ、スポーツと健康に関する専門的な知見が共有された。

はじめに、田村将希講師（昭和医科大学スポーツ運動科学研究所）が、「スポーツ運動科学研究所とクラブ活動の関わり」と題して講演を行い、研究所の活動内容を紹介。今後は怪我の予防や競技力向上に貢献できるよう支援していきたいと述べた。

続いて、田中大介所長（保健管理センター）が「スポーツ活動における熱中症対策 ～適切な対応は勝利への第一歩～」と題し、熱中症のリスクや予防・対応策について解説。学内では、ポスター掲示による啓発活動やクラブ活動時の連絡体制整備など、具体的な取り組みが進められていることが紹介された。

壮行会では、上條由美学長による激励の言葉、小口勝司理事



1 記念撮影（業務業績表彰者） 2 記念撮影（研究業績表彰者）

研究業績（看護研究会）

所 属 名	昭和医科大学横浜市北部病院	団体名	8階B病棟
受賞内容	BI（Barthel Index）を活用した入院関連機能障害（HAD）の予防		
所 属 名	昭和医科大学病院	受賞者	次長/認定看護師 三浦 まき
受賞内容	Tele-ICU専属スタッフの職場満足度向上に向けた取り組み		
所 属 名	昭和医科大学病院	受賞者	係長/専門看護師/臨床教員 井出 由美
受賞内容	NICUにおける調乳業務に関する質改善活動		
所 属 名	昭和医科大学統括看護部	受賞者	次長/認定看護管理者 田口 美保
受賞内容	摂食嚥下評価基準の整備評価 ～ツールと記録の標準化～		



1 講演会（会場の様子） 2 壮行会（選手宣誓） 3 4 懇親会の様子 5 各クラブのユニフォーム（一部）

長、美島健二学生後援会長からの温かいメッセージが送られ、アイスホッケー部代表による力強い選手宣誓が行われた。

その後、グリークラブによる校歌・応援歌の斉唱、応援指導部によるエールが送られ、会場は熱気と期待に包まれた。

各クラブの学生たちは、目前に迫る大会に向けて、それぞれが全力を尽くすことを誓い合い、決意を新たにしました。

地域の人々と共に暑気払い 旗ヶ岡盆踊り大会を開催

7月25日、旗の台キャンパス中庭にて「旗ヶ岡盆踊り大会」を開催した。

本大会は昭和63年の第1回開催以来、地域の方々とともに盛り上げてきた。

今年は、子どもたちがやぐらの上で踊ることが出来る“ちびっこ盆踊り”が実施され、みんなで元気に“品川音頭”を踊って楽しんでいた。

今回も多くの方々にご来場いただき、かき氷や焼きそば、金魚すくいなどの屋台が並び、華やかな踊り手の皆さまや迫力ある太鼓の演奏により、会場は大いに賑わった。



1 鏡開きの様子 2 3 会場の様子 4 太鼓演奏の様子（むさし佐原太鼓）

大河ドラマの歴史監修者を招き 歴史と医療をテーマに特別講演

8月3日、昭和医科大学リカレントカレッジ特別企画（夏）「歴史のなかの医療を話そう」を上條記念館で開催した。

今回は、本学リカレントカレッジで医療に関係した歴史について講義を行っている小川良雄リカレントカレッジプリンシパルと、NHK大河ドラマ「西郷どん」の歴史監修等を手掛けた歴史学者の磯田道史教授（国際日本文化研究センター）をお招きし、歴史と医療をテーマにご講演いただいた。

第一部では、小川良雄リカレントカレッジプリンシパルが「歴史に隠れた病気を探る」と題し、歴史上の偉人がどのような病気で亡くなったのかなどについて、分かりやすく解説した。

続いて、第二部では、磯田道史教授が「歴史の中の病気・患



1 講演の様子（小川良雄リカレントカレッジプリンシパル） 2 講演の様子（磯田道史教授）

者・医師」と題し、古代からスペイン風邪（インフルエンザ）までの日本の感染症の歴史について、分かりやすく講演した。

当日は300名を超える方が参加され、参加者からは「歴史上の偉人がかかっていた病気や、過去のパンデミックを多角的な視点からお話しされていたのが興味深かった」「医療は先へ先へと進んでいくものと思っていたが、過去に学ぶことも多々あることを実感した」といった好評の声が寄せられた。

日本小児科学会学術集会 トラベルグラント獲得

演題名 「非ケトン性低血糖と同様にケトン性低血糖症においてもカルニチンは欠乏状態にあるか？」

受賞者 矢島瑞己さん（医学部6年）

日程： 2025年4月18日～20日：ポートメッセなごや



獲得した矢島瑞己さん（左）、笹元凌さん

日本栄養治療学会首都圏支部 第16回支部学術集会優秀賞

演題名 「プレバイオティクスと抗けいれん薬の相互作用の調査・解析」

受賞者 小貫敬太さん（薬学部6年）

日程： 2025年5月17日：ワークピア横浜



左から、小貫敬太さん、唐沢浩二准教授

看護とリハビリのお仕事体験！ 子どもアドベンチャーカレッジ開催

8月5日、6日の2日間、横浜市教育委員会企画の「子どもアドベンチャーカレッジ2025」を横浜キャンパスにて開催し、51組106名が参加した。

昭和医科大学保健医療学部では、「看護やリハビリのお仕事を体験してみよう!」をテーマに、看護師・理学療法士・作業療法士の仕事の一部を体験してもらった。

はじめに、鈴木久義保健医療学部長が大学の紹介を行った後、各学科・専攻の学生がそれぞれの職種紹介と体験する内容について説明を行った。

その後、看護師・理学療法士・作業療法士のブースに分かれて、保健医療学部の学生や教育職員が丁寧に説明を行いながら体験学習を行った。

看護学科では「点滴の滴下調節」「消毒・包帯」の医療体験を行った。体験した小学生からは「点滴をリズムよく落とすのが難しかった」「患者さんの状態に合わせて看護の内容を変えていることが勉強になった」などの感想が寄せられた。

リハビリテーション学科理学療法学専攻では、「ジャンプ力向上チャレンジ」「アイシング」の体験を行った。体験した小学生から



1 当日の様子 2 理学療法：ジャンプ力向上チャレンジ

は、「ジャンプ力が上がって嬉しかったので、体力テスト前にやってみたい」「アイシングすると痛みがなくなることを知った」など、気づきの声が聞かれた。

リハビリテーション学科作業療法学専攻では「食事に関する福祉用具の体験」「手の装具作成及び使用体験」の医療体験を行った。体験した小学生からは、「日常生活で困っている人を手助けできる仕事だと思った」「装具を作る仕組みが面白かった」などの感想が寄せられた。

全体を通して小学生が熱心に体験を行っている様子が見られ、実際に医療現場で行われている業務や物品に触れて、各職種の役割や業務内容について理解を深めていた。

AI解析による不正咬合診断サポート実現目指し 日本デジタル歯科学会学術大会 最優秀発表賞を受賞

芳賀秀郷准教授（歯学部歯科矯正学講座）、中納治久教授（同）、株式会社ブレインパッドらの共同研究グループが、日本デジタル歯科学会第16回学術大会（5月10日～11日：日本歯科大学生命歯学部）において、演題名「深層学習を用いた不正咬合分類モデルによる診断サポートの実現可能性検証」にて最優秀発表賞を受賞した。日本デジタル歯科学会は、国民に対して安全、良質な歯科医療を提供するためにデジタルソリューションの普及を図るとともに、

【芳賀秀郷准教授のコメント】

この度は、このような栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の発表では、深層学習（AI技術）を応用して、日常臨床で撮り溜めた口腔内のデジタル写真から不正咬合の診断サポートを試みた研究になります。また、本研究は2024年に株式会社ブレインパッドと締結した「矯正歯科診療データを用いたAI解析」に関する共同研究契約のプロジェクトの1つであり、大学と企業の各々の強みを活かした産学連携である本研究が評価されたことは大変嬉しく思います。これから乗り越えていかなければならない課題も多々ございますが、歯科臨床への還元や社会実装を目指し進めていきたいと考えております。



記念撮影

それにより国民の健康増進及び福祉の向上に貢献することを目的としている。今年度は「デジタル技術の潮流と革新－デジタル技術は歯科医療を変革したか?－」をテーマに掲げ、開催された。

なお、本AI研究を推進するにあたり、昭和医科大学統括研究推進センター（SURAC）の臨床研究アドバイザーであり、昭和医科大学ICTセンター長の龍家主准教授にも多大なるご助言を頂きました。この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

引き続き、研究に精進し、大学の研究促進と社会への貢献に尽力する所存です。改めて、日頃よりご指導、ご助力をいただいている統括研究推進センター（SURAC）の皆様、関係者の皆様および講座の先生方に心より御礼申し上げます。

関連リンク／日本デジタル歯科学会 <https://www.jaddent.jp/>、日本デジタル歯科学会第16回学術大会 <https://jadd16.com/>

全世界の強豪が競う空手道大会で 本学職員の看護師が準優勝を飾る

本学職員で看護師の知念琉花さん（昭和医科大学横浜市北部病院 勤務）が、第7回全世界体重別空手道選手権大会（4月27日：東京体育館、国際空手道連盟 極真会館主催）にて、女子中量級で準優勝を果たした。全世界体重別空手道選手権大会は、体重無差別の世界大会に次ぐ規模と格式を誇る大会で、4年に一度開催される。世界各国・各地域の国際空手道連盟（I.K.O）から選抜された強豪選手が出場し、男子4階級（軽量級、中量級、軽重量級・重量級）・女子3階級（軽量級、中量級、重量級重量級）の各階級に分かれトーナメント形式で優勝を争う。第7回大会は通常であ

【知念琉花さんのコメント】

今大会は、私の所属する道場の今西登之彦師範、杉山史紘師範代が出場していた大会と同じく大規模な大会であり、そのような大会に出場できることに対して意気込みがありました。それに加えて、代表選手として選出して頂いたことにとても感謝しています。

元々私は代表選手ではなくリザーバーという立場ではあったのですが、代表選手として昇格させていただき、結果沢山の方のご協力のお陰で準優勝できました。

今回初めての中量級出場ということで、試合までの期間の減量が一番過酷だと感じました。減量は試合までの2ヶ月の間に約10

準優勝を果たした知念琉花さん



ば2021年に行われる予定だったが、コロナ禍によって中止を余儀なくされ、今回が2017年の第6回大会以来8年ぶりの開催となった。

大会結果	
第7回全世界体重別空手道選手権大会 女子中量級（-65kg）	準優勝 知念琉花 選手 (I.K.O.日本／神奈川横浜北支部)

キロの調整が必要であり、仕事と稽古との両立をする難しさを学ばせていただきました。

職場では栗山一葉師長や會下葉子係長、渡會麻紗美係長をはじめ沢山の方に応援して頂き、道場では稽古で先輩から後輩まで沢山のご助言や相手をして頂いたことで自分を見失わず挫けずここまでこれたと考えています。

次は11月にある全日本無差別大会に出場させていただきたいと考えているため、稽古を継続しながら仕事にも尽力していく所存です。更なる自分の成長を目標に日々精進していきますので応援のほどよろしくお願いいたします。

Reviewer of the Year 2024を受賞 JIC誌論文査読者の貢献が評価

前田真之准教授（薬学部臨床薬学講座感染制御薬学部門）が、Journal of Infection and Chemotherapy（JIC）誌の「Reviewer of the Year 2024」を受賞し、第99回日本感染症学会総会・学術講演会／第73回日本化学療法学会総会 合同学会（5月8日～10日：パシフィコ横浜）において、表彰された。「Reviewer of the Year」は、JIC誌の査読を積極的に務めて、

【前田真之准教授のコメント】

このたび、Journal of Infection and Chemotherapy（JIC）誌のReviewer of the Year 2024を受賞いたしました。

JIC誌は、わが国の感染症・化学療法領域の学術研究・啓発活動において中心的な役割を果たしている日本感染症学会、日本化学療法学会、および日本環境感染症学会の英文機関誌です。研究論文の査読（review）は査読者の専門性に基づいて行われ、研究論文の質を保証し、科学の発展に貢献する重要な役割を担っています。査読者は投稿された論文の妥当性を評価し、問題点・改善点などを指摘します。このプロセスには大きな労力を要しますが、通常、査読は匿名で行われ、その努力や貢献が見えにくい

投稿論文の質向上に貢献する査読内容を提案した査読者に行われる表彰である。

（左から）前田真之准教授、泉川公一教授（JIC編集委員長：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野）



ことから、このような形で評価されたことは研究者として大変嬉しく思っております。

引き続き、感染症・感染制御領域の臨床研究を進めるとともに、国際的な学術誌の査読を通じて、医学や医療の発展に貢献していきたいと思います。

関連リンク／Journal of Infection and Chemotherapy Reviewer of the Year <https://www.sciencedirect.com/journal/journal-of-infection-and-chemotherapy/about/news/jic-reviewer-of-the-year-2024>、公益社団法人日本化学療法学会 Reviewer of the Yearについて https://www.chemotherapy.or.jp/modules/publications/index.php?content_id=26

瑞宝中綬章、瑞宝双光章を受章 医療により社会に尽くした功労を称える春の叙勲

令和7年春の叙勲受章者が4月29日に発表され、安原一名誉教授が「教育研究功労」により瑞宝中綬章、矢澤直行氏が「保健衛生功労」により瑞宝双光章をそれぞれ受章した。瑞宝章は日本の勲章の1つで、公務等に長年にわたり従事し顕著な功績を挙げた人物に授与される。安原名誉教授・矢澤氏の2名は、令和7年春の勲章・褒章伝達式（5月21日：ホテルニューオータニ東京）にて勲章と勲記を伝達された後、皇居にて天皇陛下への拝謁を受けた。

【安原一名誉教授のコメント】

このたび教育研究功労により瑞宝中綬章の栄誉を賜り光栄に存じます。瑞宝章は、公務に長年尽力し顕著な功績を挙げた者に授与されるとのことで、身の引き締まる思いです。これまで、厚生労働省中央薬事審議会の臨時委員として7年間、抗感染症薬の承認・審査に携わりました。また第2回ICH（医薬品承認審査ハーモナイゼーション国際会議）では、薬物代謝における民族差に関する研究成果を発表し、国際的な臨床試験データの相互受け入れに寄与できたことは貴重な経験でした。さらに、AMED（日本医療研究開発機構）発足時より「医薬品等規制調和・評価研究事業」において、プログラムオフィサーおよび評価委員として関与し、医療政策の推進に貢献できたことも大きな誇りです。また大学教育においては数々の医療人の育成に携われた事も大きな喜びです。

このたびのご推薦に深く感謝申し上げ、昭和医科大学のさらなるご発展を祈念するとともに、今後も研鑽を重ねてまいります。



1（左から）安原一名誉教授、小口勝司理事長
2 矢澤直行氏



【矢澤直行氏のコメント】

この度は、叙勲の栄誉を賜り誠に光栄に存じます。しかしこれは私個人に与えられたものでありながら、育んでいただいた母校、恩師、上司、同僚と、周囲の方々のサポートがあつてのことと思います。従って、その方々の代表としていただいたものと考えれば納得ができます。

母校昭和（医科）大学薬学部を卒業後、臨床検査技師として大学病院及び関連病院で定年退職まで勤務させて頂きました。その間、留学、新病院の開設、電子カルテの開発、臨床検査大学院の開設と多くの活動機会を頂きました。とりわけ、エジプト、ベトナム、カザフスタンでの国際医療プロジェクトに加わり現地での生活を通じて、任国の人々と問題解決に立ち向かえたことは貴重な体験でした。慣れない異国での生活に同行してくれた家族にも感謝です。

大学退職後はインドネシアで検査センターの設立に、現在はキルギス共和国の国家プロジェクトに関わっております。今回の叙勲を励みに微力ながら更にグローバルな保健医療に貢献できるよう精進を続けて参る所存です。

認定看護管理者教育の最終課程 サードレベル開講式

8月8日、2025年度認定看護管理者教育課程サードレベルの開講式を開催した。

例年同様オンラインでの開催となり、全国から集まった受講生34名が出席した。

本教育課程は日本看護協会が資格認定を行っている制度で、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有する看護管理者を育成するために、「ファースト」「セカンド」「サード」とキャリア別に3つの教育課程が実施されている。本学は全国の大学に先駆けて認定看護管理者教育機関として認定された。

小川良雄リカレントカレッジプリンシパルは「皆さんは本日から35日間194時間の課程を学びます。これまでの課程よりさらに高度な内容を学んでいただきます。健康に留意して無事に研修を修

挨拶：増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長



了し、認定看護管理者となられることを祈っております」と告辞を述べた。

続いて増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長から、「今回の研修で大変なことたくさんあるかと思いますが、センターがサポートしますので、自ら成長を続けていけるよう、創造的に柔軟に研修を受けていただきたい」と挨拶があった。

挨拶の後、研修生代表の菅原寛子さんは、「仲間と切磋琢磨しながら、限られた資源の中で効果的に医療サービスを提供できるよう、仕事と両立し、健康に留意しながら学んでいきます」と決意を新たにした。

日本循環器学会学術集会 コメディカル賞(奨励賞)受賞

岡田貴裕助教（薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門）が第89回日本循環器学会学術集会（3月28日～30日：パシフィコ横浜）において、「悪性腫瘍合併静脈血栓塞栓症患者におけるがん種および経口抗凝固薬の特徴と転帰の検討」の演題名で第15回日本循環器学会コメディカル賞（看護・薬剤・リハ部門）奨励賞を受賞した。日本循環器学会学術集会は、循環器領域に関わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士など多職種が参加し、「循環器医療におけるチーム医療の推進」「最新の診療ガイドラインとエ

【岡田貴裕助教のコメント】

このたび、コメディカル賞（奨励賞）という荣誉ある賞を賜り、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

現在、がん治療の進歩により、がん患者の生命予後は改善していますが、その一方で治療に伴う心血管合併症が新たな臨床課題として注目されています。抗がん薬に起因する心血管疾患は、致命的となる重篤な合併症であり、治療の継続性や患者の生活の質（QOL）にも深く関わる重要な問題です。

このような背景のもと、がんと循環器疾患という二大領域を統合的に扱う「腫瘍循環器学」は、近年国内外で急速に注目を集めており、学術的にも臨床的にも極めて重要な分野として発展を遂げつつあります。

本研究では、日本循環器学会が実施する「循環器疾患診療実態調査」のデータベースを活用し、悪性腫瘍を合併した静脈血栓塞栓症（VTE）患者におけるがん種・経口抗凝固薬の使用傾向および臨床転帰の関連性について検討を行いました。その結果、化学療法歴のある悪性腫瘍合併VTE患者群は、化学療法歴のない患者群と比較して入院中30日以内の全死亡が低下することが示

ビデンスの共有」「基礎・臨床研究の融合」など、循環器疾患に関連する幅広いテーマについて活発な議論が行われる学術集会である。第89回学術集会は、「私たちは循環器が好き - We Love Cardiovascular (CV) Science -」をメインテーマに開催された。



左から向後麻里教授、岡田貴裕助教、須永登美子兼任講師

されました。また、悪性腫瘍合併VTE患者の直接経口抗凝固薬の使用率は年々増加傾向で2020年以降はアピキサバンの使用率が最も高いことが明らかとなりました。

本研究は、藤が丘病院 循環器内科との共同研究として実施され、江波戸美緒教授（藤が丘病院循環器内科）、磯良崇准教授（同）をはじめとする多くの先生方より多大なご支援を賜りました。

また、日頃よりご指導をいただいております向後麻里教授（薬学部臨床薬学講座薬物治療学部門）、須永登美子兼任講師（薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門）にもこの場を借りて深く御礼申し上げます。

今後も、臨床現場のニーズに即した実践的研究を継続し、がん患者の予後改善およびQOL向上に資する科学的根拠（エビデンス）の創出に努めてまいります。

[関連リンク](https://www.congre.co.jp/jcs2025/greeting/index.html)／第89回日本循環器学会学術集会 <https://www.congre.co.jp/jcs2025/greeting/index.html>

世田谷学園中学校・高等学校にて 出張授業を実施

6月2日、本学の包括連携協定校である世田谷学園中学校・高等学校にて三邊武彦教授（統括研究推進センター）が、高校2年生約220名に向けて出張授業を行った。テーマは「大学入学前に身につけておいてほしいこと」として、学習面や生活面、考え方など、大学が求める人物像や医療職を志す上で高校時代から実践できることについて、具体的なアドバイスを交えながら説明した。参加した生徒たちは今後の進路選択に向けて熱心に耳を傾けていた。

今回の出張授業は、令和6年3月22日に締結された両校の包括連携協定に基づく高大連携の強化を目的として実施されたものである。

今後も両校は、様々な相互交流を通じて、連携を強めていく。



授業の様子（三邊センター長）

[関連リンク](https://www.showa-u.ac.jp/news/nid00006318.html)／世田谷学園中学校・高等学校と包括連携協定を実施、<https://www.showa-u.ac.jp/news/nid00006318.html>

Database

令和7年度

科学研究費助成事業採択課題一覧

令和7年度の科学研究費助成事業の交付は全体で343件が採択され、総計で4億1,475万円が交付される。

各所属の採択件数・交付額は以下の通り。

■医学研究科：127件 1億5,255万円 ■歯学研究科：98件 1億3,670万円 ■薬学研究科：40件 4,000万円
■保健医療学研究科：35件 2,440万円 ■富士吉田教育部：4件 580万円 ■研究所等：39件 5,530万円

今号では、医学研究科の一覧を掲載する。

※所属・役職は令和7年5月交付時点

医学研究科

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額(円)	研究課題名
学術変革領域研究 (A)	生化学分野	講師	森戸 大介	15,000,000	タンパク質寿命の変容と血管狭窄
	生体調節機能学分野	准教授	本間 元康	2,200,000	顔貌の変化が顎変形症患者の認知機能と精神疾患傾向に与える作用メカニズムの解明
		准教授	宮崎 拓郎	3,400,000	代謝臓器の質を司るmRNA成熟因子の作動原理解明と臨床的基盤の構築
基盤研究 (B)	生化学分野	講師	原口 省吾	3,500,000	加齢に伴う皮膚局所内分泌系の変容により引き起こされる加齢性皮膚疾患の分子機序解明
	リウマチ・膠原病内科学分野	教授	矢嶋 宣幸	3,600,000	RA診療の質指標の新たな挑戦：QI-PXギャップ評価と臨床監査介入で診療の改善を目指す
	消化器内科学分野	兼任講師	森 悠一	1,500,000	がん検診へのAI介入により、大腸癌は予防できるか -大規模ランダム化試験
	救急・災害医学分野	教授	宮本 和幸	2,500,000	熱中症・敗血症(全身性炎症)における急性期～中長期の神経・液性シグナル連関の解明
	顕微解剖学分野	講師	康 徳東	1,300,000	抗刷子縁抗体による近位尿管上皮傷害とミトコンドリア異常の関連性
		講師	澤 智華	1,300,000	褥瘡形成と修復における皮膚ランゲルハンス細胞の役割と細胞外核酸の治療応用
	肉眼解剖学分野	講師	井上 由理子	1,100,000	自律神経異常と皮膚免疫機能低下が褥瘡治療および感染リスクに与える影響の解明
基盤研究 (C)	生体制御学分野	准教授	安達 直樹	600,000	周産期ストレスによる胎児神経幹細胞分化過程の攪乱と大脳白質形成への影響
	生体調節機能学分野	教授	泉崎 雅彦	1,000,000	睡眠時無呼吸による認知機能障害での海馬アストロサイトの役割の解明と治療標的の探索
		准教授	政岡 ゆり	500,000	嗅覚 - 記憶の連関を用いた脳内ビジュアルイメージトレーニング法の確立
	生化学分野	教授	前濱 朝彦	1,200,000	PICT 1 を起点とする核小体ストレス応答機構の全貌解明
		講師	清水 芳実	1,100,000	ビフィズス菌の腫瘍集積性に着目した新規膀胱がん治療薬の開発
		助教	折井 みなみ	2,100,000	分子形態学に基づいたもやもや病の病型分類
	臨床病理診断学分野	特任教授	本田 一穂	1,400,000	分子標的薬による腎糸球体傷害の3次元電顕解析とオルガネラ診断への応用
		准教授	塩沢 英輔	1,900,000	橋本病関連リンパ腫HTALの疾患概念の確立と発生機序に関する臨床病理学的検討
	医科薬理学分野	兼任講師	小山田 英人	1,100,000	悪性高熱症の術前遺伝子診断に繋がる重要なRyR1 変異体215種の機能解析
	衛生学公衆衛生学分野	准教授	山内 武紀	300,000	感染症における定点把握の妥当性に関する研究
	法医学分野	教授	松山 高明	1,200,000	心筋疾患による心臓の末梢血管の病理形態学的変化に着目した心不全発症機序の解明
		教授(員外)	城 祐一郎	1,300,000	終末期医療における延命治療の中止等の尊厳死法制に向けた国内的・国際的実態調査
微生物学免疫学分野		准教授	草野 麻衣子	700,000	急性カフェイン中毒にCYP1A2と腸内細菌が与える影響の解明
		教授	伊與田 雅之	900,000	腎ILC2活性化によるCKD制御の試み
		准教授	石川 裕樹	500,000	インフルエンザウイルス感染における早期ウイルス排除は細菌二次感染予防に寄与するか
		准教授	鈴木 慎太郎	2,300,000	仮想/拡張現実シミュレーション学修により医療事故を防ぐ看護・医学教育プログラム
	リウマチ・膠原病内科学分野	教授(員外)	井上 嘉彦	600,000	高齢者慢性腎臓病に対するサルコペニア・フレイル予防を考慮した食事療法の開発

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
リウマチ・膠原病内科学分野		助教	羽多野 美香	3,000,000	保険データを用いた妊娠SLE患者の診療の質指標（QI）によるエビデンス診療ギャップ調査
		助教	三浦 瑠子	1,400,000	LINEを使ったHPVワクチン接種推奨プログラムの開発検証と免疫抑制剤と子宮頸癌の関連の検討
		兼任講師	辻本 康	1,600,000	大規模言語モデルによる診療ガイドライン改訂支援システムの開発と多疾患への応用
		普通研究生	城下 彰宏	1,000,000	再発性下気道感染症のデータベース構築と抗緑膿菌活性をもつ抗菌薬の有効性の検討
糖尿病・代謝・内分泌内科学分野		准教授	森 雄作	700,000	食事由来の終末糖化産物が造精機能障害を惹起する分子機序の解明と治療法の開発
		講師	寺崎 道重	1,800,000	外因性の終末糖化産物による動脈硬化の分子機構の解明と機能的核酸医薬によるその阻止
消化器内科学分野		准教授	坂木 理	1,600,000	肝線維化治療に特化した新たな中鎖脂肪酸療法の確立
		講師	一政 克朗	1,300,000	人工知能による、デジタルパソロジーを活用した早期大腸癌の低侵襲治療の構築
		講師	三澤 将史	900,000	医師の内視鏡操作技術を定量化する人工知能を用いた教育システムの構築
		講師	前田 康晴	900,000	潰瘍性大腸炎患者の行動変容を促すモバイルヘルスシステムの開発と効果検証
循環器内科学分野		教授	新家 俊郎	1,100,000	新規冠微小循環定量法による左室機能保持心不全患者に対する監視下運動療法効果の解明
		教授（員外）	木庭 新治	1,100,000	心臓リハビリテーションによるトリグリセリド代謝を介した抗動脈硬化作用機序の解明
		准教授	礪 良崇	600,000	腫瘍循環器における末梢血マイクロRNAによる運動耐容能評価・運動処方の開発
		准教授	松本 英成	500,000	ブラーク内出血とハプトグロビン遺伝子多型から見た新たな冠動脈イベント予防戦略
腎臓内科学分野		講師	樋口 聡	1,200,000	代謝異常関連脂肪性肝疾患を合併した心不全における心臓リハビリテーションの効果
		教授	本田 浩一	1,100,000	慢性腎臓病のエピゲノム異常と栄養障害、サルコペニアとの関係
		准教授	溝渕 正英	900,000	CKDのリン代謝異常による新規臓器毒性の探究
		講師	加藤 憲	1,800,000	iPS細胞を用いた長期腹膜透析を可能とするための腹膜再生医療の開発
血液内科学分野		教授	服部 憲路	1,200,000	臍帯血移植後の老化免疫細胞の探索
脳神経内科学分野		教授	村上 秀友	700,000	内因性ドパミンの賦活によるパーキンソン病の治療効果を予測する神経心理学的背景
		准教授	金野 竜太	250,000	失語症患者の統語機能を支える脳内ネットワークの構造的再編メカニズムの解明
		准教授	黒田 岳志	1,100,000	音声解析AIを用いた認知機能評価アプリケーションの開発と有用性の検証
腫瘍内科学分野		助教（医科）	鈴木 梨沙子	1,200,000	非古典的単球及び非古典的単球由来細胞における新規同定単球遺伝子の機能解明
心臓血管外科学分野		准教授	廣田 真規	900,000	両心室機能評価装置を搭載した体外式搬送システムによる心停止ドナー心の選別
呼吸器外科学分野		准教授	遠藤 哲哉	1,300,000	肺がんにおける肺動脈血由来T細胞を用いた術後再発バイオマーカーの開発
消化器一般外科学分野		教授（員外）	大塚 耕司	1,400,000	安全なロボット支援下手術を目指したロボットエネルギーデバイスにおける熱損傷の検証
		准教授	福島 光浩	2,000,000	頸部術後出血による創部内圧上昇に伴う気道閉塞を防止する創部内圧持続測定法の開発
		講師	加藤 容二郎	600,000	少子化対策としての心停止下提供子宮移植普及へ向けた基礎研究（動物実験モデル）
		講師	山下 剛史	400,000	終末糖化産物測定による新たな食道癌手術侵襲評価マーカーの開発
		講師	田代 良彦	1,400,000	より安全で精緻な手術を実現する光るガーゼ開発
		講師	藤森 聡	1,000,000	腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術におけるCT volume dataを用いた適切なポート配置の検討
		助教	富岡 幸大	1,100,000	解剖誤認根絶を目指した外科医の認識をサポートする新規AIシステムの開発
		教授	林 直輝	400,000	原発乳癌リンパ節転移陽性患者における術前化学療法後腋窩郭清省略の多施設共同研究
乳腺外科学分野		助教	土田 寧恵	400,000	T細胞受容体レパトア解析を用いた乳癌術前化学療法の早期反応性予測
		教授	川崎 恵吉	900,000	深層学習を用いた舟状骨偽関節例における骨壊死の術前の非侵襲的診断の開発
整形外科分野		客員教授	平泉 裕	900,000	損傷脊髄に生着しやすい骨髄間葉系幹細胞の特性化と予見的選抜法の開発
リハビリテーション医学分野		教授（員外）	笠井 史人	1,100,000	周術期のための遠隔ブレハビリテーションシステムの開発とその効果検証

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
基盤研究（C）	リハビリテーション医学分野	兼任講師	和田 真一	600,000	「主体性」が中途障害者の生活を改善させる ―主体性評価に基づく関わり方の効果―
	産婦人科学分野	教授	市塚 清健	2,100,000	次世代型HIFUトランスデューサを用いた病的胎盤に対する非侵襲治療に向けた基礎的検討
		教授	関沢 明彦	1,000,000	妊婦血漿中cfDNAのゲノム解析データを用いた周産期予後の評価法の開発
		教授	松本 光司	600,000	HPVワクチン接種後の血清抗体：発症予防抗体価と持続期間の検討
		講師	川嶋 章弘	1,200,000	ADORA2B抑制による胎盤幹細胞の酸化ストレス応答とPE予防戦略の開発
		講師	三村 貴志	1,800,000	深層学習を用いたコルボスコピーAI診断支援システムの開発
		講師	金子 真由美（徳中）	1,000,000	アスピリン抵抗性の遺伝学的解析による妊娠高血圧腎症の病態解明と予防・治療開発
	皮膚科学分野	助教	小松 玲奈（香川）	1,000,000	深層学習を用いた超音波検査における胎盤機能不全の予測
		助教	中林 誠	1,200,000	AI画像認識モデルを用いた子宮マニピュレーターロボットの自動操縦
		教授	猪又 直子	1,200,000	慢性蕁麻疹におけるSTAP-2の脱顆粒制御機構の解明
	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	教授（員外）	渡辺 秀晃	1,100,000	SJS/TEN患者の全ゲノム解析・HLA3次元立体構造解析による発症機序・治療薬の探究
		助教（医科）	雷 小峰	900,000	シングルセル解析を用いた全身性強皮症新規標的分子の解析
若手研究	小児内科学分野	講師	洲崎 勲夫	500,000	好酸球性鼻副鼻腔炎の難治化におけるIL-4Rαを介したType2炎症過剰亢進機序の解明
		教授（員外）	今井 孝成	1,200,000	経口免疫療法の舌下併用ランダム化比較試験と評価指標として抗原結合親和性の探索
		教授（員外）	加藤 光広	1,000,000	深層学習モデルで解き明かす発達性てんかん性脳症と脳形成異常の遺伝素因と画像診断
	小児循環器内科学分野	助教	金澤 建	2,800,000	小児用非接触型バイタルサインモニタリングシステムの研究開発
		助教	本多 愛子	700,000	鶏卵のFPIES（food protein-induced enterocolitis）の自然歴とバイオマーカーの探索
	放射線治療学分野	教授（員外）	藤井 隆成	700,000	3Dプリンティングによる動脈管ステント留置最適化アルゴリズムの構築
		助教	齋藤 真理子	900,000	非造影MRIによる先天性心疾患患者のリンパ管の形態評価に関する研究
	精神医学分野	教授	真田 建史	800,000	腸管免疫システムをターゲットとする漢方生薬を用いたうつ病治療の予備研究
		教授	稲本 淳子	800,000	認知機能を軸とした急性期の気分障害における評価と包括的支援の開発及び効果の検証
		客員教授	戸田 重誠	1,100,000	ADHDの世界認識はなぜ「ズレ」るのか；表現学習における質的・量的変化の検証
	麻酔科学分野	准教授	富岡 大	400,000	SNSを用いた妊娠中の心理生活支援による産後うつ病予防効果方法の確立
		兼任講師	原田 堅	1,100,000	ナノ技術を用いた密着性、伸縮性、薬剤溶出性が融合した食道ステントカバー材料の開発

若手研究	臨床病理診断学分野	准教授	西村 晶子	600,000	短時間作用性全身麻酔薬レミゾラムが脳神経発達に与える影響
		講師	小林 玲音	1,600,000	人工膝関節置換術後の早期ペインクリニック介入による慢性疼痛予防
	医科薬理学分野	講師	奥茂 敬恭	600,000	難治性骨折に対する治打撲一方の治療効果に関する基礎的解析
		助教	佐々木 陽介	600,000	リンパ節穿刺吸引細胞診における細胞塗抹標本の補助的診断手法利用に向けた検討
	呼吸器アレルギー内科学分野	助教	和田 あかね	1,600,000	空間オミクス解析を用いた粘表皮癌の癌幹細胞分化と病態の連関解明
		教授	小口 達敬	1,200,000	エルゴチオネインの神経保護作用とアルツハイマー型認知症治療薬への応用
	リウマチ・膠原病内科学分野	助教	根本 紀子	500,000	生殖技術における人体資源利用の諸問題の整理及び検討
		講師	宮田 祐人	300,000	喘息患者における広域周波オシレーション法での呼吸抵抗に基づいた新規治療法の探求
	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	助教	江波戸 貴哉	1,700,000	IL-34のM2マクロファージを介した喘息病態における役割の解明
		講師	柳井 亮	800,000	SLEの遺伝情報を含む診断時コホート構築-個別医療を目指した機械学習とクラスター解析
	消化器内科学分野	助教	小黒 奈緒	600,000	ステロイド誘発性満月様顔貌の定量による容姿変容ストレスの解明と管理ツールの開発
		助教	八島 広典	1,800,000	動物性タンパク質による糖尿病性腎症の増悪機構解明と機能的核酸医薬を用いた治療

消化器内科学分野	講師	居軒 和也	400,000	日本の大腸がん死亡減少のための新たなアプローチ：消化器内視鏡専門医偏在の評価
	助教	峯岸 洋介	500,000	最も汎用的に使用される大腸内視鏡AIの開発
	助教	田邊 万葉	1,800,000	内視鏡による動的評価で革新するGERD診断法の確立と臨床応用
	兼任講師	工藤 豊樹	600,000	大腸腫瘍に対するEndocyto（超拡大内視鏡）診断体系の基盤確立
消化器内科学分野	兼任講師	佐藤 雄太	2,000,000	排便状態から大腸癌と便の有無を認識する人工知能アプリケーションの開発

研究種目	分野	職名	研究者名	内定額（円）	研究課題名
若手研究	腎臓内科学分野	講師	齋藤 友広	1,900,000	尿毒症環境下におけるマグネシウムとカルシミメティクスの石灰化と骨量への影響
	血液内科学分野	助教	馬場 勇太	1,900,000	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の治療感受性を決定する腸内細菌・短鎖脂肪酸の解析
	脳神経内科学分野	講師	森 友紀子	500,000	認知症に対する非薬物療法の効果を可視化する評価方法の探索
		兼任講師	杉本 あずさ	(※1) 0	アルツハイマー病における時間認知障害 一関係発達論による神経心理学の展開ー
	腫瘍内科学分野	講師	大熊 遼太郎	900,000	免疫療法不応の克服に向けた可溶性免疫チェックポイントの解析及び膀胱癌治療への応用
	呼吸器外科学分野	講師	氷室 直哉	600,000	動脈血マイクロRNAによる肺癌の早期診断手法の開発
	消化器一般外科学分野	助教	平井 隆仁	600,000	脾切除後脾液瘻克服を目的とした、腸内・脾内細菌叢の網羅的解析
	乳腺外科学分野	助教	吉田 伶香	600,000	Plasma-safe-seqs技術を用いた乳癌再発の早期診断法の確立
	整形外科分野	講師	岡野 市郎	600,000	脊椎術後骨量減少の診断・治療法の確立
		助教	百々 悠介	900,000	髄鞘を標識した遺伝子改変メダカを用いた骨折治癒過程における髄鞘の動態解明
	産婦人科学分野	講師	廣瀬 佑輔	200,000	子宮頸癌における新規治療マーカー：血中HPV-DNA E7 定量法の確立
	泌尿器科学分野	助教	後藤 未奈子	1,300,000	AGEsに着目した妊娠高血圧症候群の発症機序の解明とプレコンセプションケアへの応用
		助教	松井 祐輝	700,000	化学療法誘因性末梢神経障害への冷却療法に対する血流スコープ評価と新規治療法の開発
	小児内科学分野	講師	岡田 祐樹	300,000	Avidityに着目した食物経口免疫療法の出口戦略
		助教	日隈 のどか	200,000	fNIRSを用いた早産児の学齢期の前頭葉機能に関する研究
	循環器内科学分野	普通研究生	田中 未央里	1,200,000	ヒトミルクオリゴ糖の母乳細菌叢形成における役割と濃度調節機構の解明
		講師	南雲 さくら	100,000	急性心筋梗塞患者の冠血流予備能改善に対する心臓リハビリテーションの効果
国際共同研究 加速基金 (国際共同研究 強化 (A))	整形外科分野	講師	辻内 美希	(※1) 0	肥大型心筋症における心臓リハビリテーションの有効性の検証と評価法の確立
		助教	篠原 茜	800,000	血管内皮グリコリックス崩壊の保護や回復を促す薬物治療法の探索的研究
	救急・災害医学分野	准教授	垂水 庸子	900,000	転倒から急性疾病を見抜く救急外来向けチェックリストの開発と検証：AI応用への挑戦
		助教	鈴木 恵輔	600,000	エネルギー代謝から考える熱中症予防薬の開発

国際共同研究 加速基金 (国際共同研究 強化 (A))	整形外科分野	講師	石川 紘司	(※2) 0	「骨の質」を基盤とした術後合併症予測モデルの国際展開
--------------------------------------	--------	----	-------	--------	----------------------------

※1：研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し
※2：研究開始年度に全額入金有り

次号（Dec. 2025）では、歯学研究科と薬学研究科の一覧を掲載する。

なんでもご相談下さい。

医学堂書店

有限会社 医学堂書店

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-11-9
TEL 03-3783-9774 FAX 03-3783-3156
Email igakudo@peridot.bforth.com

SMBC

ご存じですか？
スマホの口座

Olive

Fit For Your Cashless Living

三井住友銀行

令和8年度

入学試験要項

医学部における新たな入試区分の新設、保健医療学部初年次学生納付金の減額など

令和8年度昭和医科大学入学試験要項を公開し、総合型選抜入試の出願がスタートした。昨年度からの主な変更点は、医学部における新たな入試区分の新設や保健医療学部における学生納付金の減額である。

〈令和8年度入試のポイント・変更点〉

1. 医学部における新たな入試区分【学校推薦型選抜入試（公募）】の新設
2. 保健医療学部 一般選抜入試（Ⅰ期・Ⅱ期）、リハビリテーション学科理学療法学専攻一般選抜入試（Ⅰ期・Ⅱ期）利用の作業療法学専攻第二希望併願入試 学力試験出題範囲の変更
3. 出願書類審査の点数化なし（総合型選抜入試を除く）※前年度継続
4. 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻の特待制度一部廃止
5. 保健医療学部 学生納付金の減額



※詳細は昭和医科大学受験生サイトをご確認ください

■令和8年度 入学試験日程

医学部				
※令和8年度 医学部地域枠選抜入試については、文部科学省へ入学定員増員認可申請中であるため、詳細は12月上旬に受験生サイトにて公開予定です。				
入試区分	募集人員	出願期間（郵送必着）	試験日	発表
学校推薦型選抜入試 ※特別協定校含む	12	令和7年11月1日(土)～9日(日)	令和7年11月16日(日)	令和7年12月1日(月) 15:00
卒業生推薦入試	10			
一般選抜入試（Ⅰ期）	76	令和7年12月8日(月)～令和8年1月22日(木)	一次:令和8年2月6日(金) 二次:令和8年2月14日(土)・15日(日)	一次:令和8年2月11日(水祝) 12:00(正午) 二次:令和8年2月16日(月) 12:00(正午)
一般選抜入試（Ⅱ期）	12	令和8年2月2日(月)～24日(火)	一次:令和8年3月7日(土) 二次:令和8年3月14日(土)	一次:令和8年3月11日(水) 12:00(正午) 二次:令和8年3月16日(月) 12:00(正午)

歯学部 薬学部 保健医療学部

入試区分	募集人員	出願期間（郵送必着）	試験日	発表
総合型選抜入試	歯 8 薬 20 看 15 リハ(理) 8 リハ(作) 9	令和7年9月1日(月)～16日(火)	歯:令和7年10月4日(土)	書類審査:令和7年9月30日(火) 15:00 試験:令和7年11月1日(土) 12:00(正午)
			薬・保:令和7年10月4日(土)	令和7年11月1日(土) 12:00(正午)
学校推薦型選抜入試 ※歯・薬・看・リハ(理・作): 指定校・特別協定校含む	歯 29 薬 51 看 43 リハ(理) 11 リハ(作) 9	令和7年11月1日(土)～9日(日)		
卒業生推薦入試	歯 7 薬 10 看 3 リハ(理) 1 リハ(作) 1		令和7年11月16日(日)	令和7年12月1日(月) 15:00
編入学試験（歯学部2年次編入、看護学科3年次編入）	歯 若干名 看 10			
一般選抜入試（Ⅰ期） リハビリテーション学科 理学療法学専攻一般選抜入試（Ⅰ期） 利用の作業療法学専攻 第二希望併願入試	【Ⅰ期】 歯 42 薬 95 看 30 リハ(理) 13 リハ(作) 5 【併願】 リハ(作) 若干名	令和7年12月8日(月)～令和8年1月22日(木)	令和8年2月5日(木)	令和8年2月10日(火) 15:00
医学部一般選抜入試（Ⅰ期） 利用の薬学部併願入試	4	令和7年12月8日(月)～令和8年1月22日(木)	一次:令和8年2月6日(金) 二次:令和8年2月14日(土)・15日(日)	一次:令和8年2月11日(水祝) 12:00(正午) 二次:令和8年2月16日(月) 12:00(正午)
一般選抜入試（Ⅱ期） リハビリテーション学科 理学療法学専攻一般選抜入試（Ⅱ期） 利用の作業療法学専攻 第二希望併願入試	【Ⅱ期】 歯 5 薬 15 看 若干名 リハ(理) 若干名 リハ(作) 若干名 【併願】 リハ(作) 若干名	令和8年2月2日(月)～24日(火)	令和8年3月8日(日)	令和8年3月10日(火) 15:00
大学入学共通テスト 利用入試	歯 5 薬 5 看 4 リハ(理) 2 リハ(作) 1	令和7年12月8日(月)～令和8年1月22日(木)	大学入学共通テスト: 令和8年1月17日(土)・18日(日) 面接:令和8年2月5日(木)	令和8年2月10日(火) 15:00

学内会議報告

就任のお知らせ (6月10日 理事会承認)

昭和医科大学副学長 (再任)

宮崎 隆

現：昭和医科大学 副学長 (国際交流・共同研究施設・入学者選抜検証担当)
任期：令和7年5月23日開催の定時評議員会終結の時～令和8年3月31日

昭和医科大学副学長 (再任)

木内 祐二

現：昭和医科大学 副学長 (産学官連携・地域連携・大学間等連携担当)
任期：令和7年5月23日開催の定時評議員会終結の時～令和8年3月31日

昭和医科大学副学長 (再任)

田中 大介

現：昭和医科大学 副学長 (保健管理担当)
任期：令和7年5月23日開催の定時評議員会終結の時～令和8年3月31日

昭和医科大学附属横浜看護専門学校準備室長



下司 映一

特任教授 (昭和医科大学IR室長)
選任日：令和7年4月1日

細胞外マトリックス研究所長



金山 朱里

細胞外マトリックス研究所 教授 (員外)
選任日：令和7年6月1日～令和10年3月31日

統括教育推進室長



上條 由美

昭和医科大学 学長
任期：令和7年5月23日開催の定時評議員会終結の時～令和9年3月31日

病態分子生化学研究センター長



前濱 朝彦

医学部生化学講座担当 教授
任期：令和7年5月23日開催の定時評議員会終結の時～令和10年3月31日

就任のお知らせ (7月8日 理事会承認)

昭和医科大学副学長 (大学院進学推進担当)



泉崎 雅彦

医学研究科長
任期：令和7年5月23日開催の定時評議員会終結の時～令和8年3月31日

臨床薬理研究所 腸内細菌機能修飾学部門長



秋山 雅博

臨床薬理研究所 臨床免疫腫瘍学部門 准教授
任命日：令和7年8月1日

藤が丘病院外科系診療センター (整形外科) 診療科長
〔勤務地：藤が丘病院外科系診療センター (整形外科)〕



神崎 浩二

医学部整形外科科学講座担当 教授
〔勤務地：藤が丘病院外科系診療センター (整形外科)〕
任命日：令和7年7月1日

横浜市北部病院 病院歯科診療科長

〔勤務地：横浜市北部病院 病院歯科〕



安田 有沙

歯学部口腔外科学講座 (顎顔面口腔外科学部門) 担当 講師
〔勤務地：横浜市北部病院 病院歯科〕
任命日：令和7年7月1日

理事会関係

◆「昭和医科大学歯科病院診療科長選任手続および

職務等に関する規程」改正

【改正趣旨】 診療科長に教授又は准教授以外を就任可能とするため。

【施行日】 令和7年6月1日

◆「学会等参加旅費規程」改正

【改正趣旨】 公的研究費を使用した国内旅費の上限額変更のため。
※社会情勢 (物価高騰) の変化に伴う、公的研究費を使用した学会等参加旅費 (宿泊料) の上限の変更 (14,000円→20,000円)

【施行日】 令和7年7月1日

◆「昭和医科大学薬理科学研究センター規程」改正

【改正趣旨】 センター構成の変更 (薬学部 基礎医療薬学講座 薬物動態学部門の追加)

【施行日】 令和7年4月1日

◆令和7年度 学校法人昭和医科大学職員数 (5月1日現在)

教育職員	2,404名	臨床研修医	188名
		歯科臨床研修医	95名
教育職員以外	5,269名	臨床研修薬剤師	75名
		職員合計	8,031名

◆名誉教授称号授与

宮崎 章 特任教授 (医学部生化学講座担当)

【任命日】 令和7年6月1日

◆昭和医科大学臨床薬理研究所 腸内細菌機能修飾学部門設置

【設置趣旨】 生体内に蓄積する化学的ストレスを基軸に、疾患の発症や進行、治療効果の個人差を引き起こす要因を解明し、それらの診断・評価技術および制御法を開発することで、個別化医療と予防医療への貢献を目指すため。

【設置日】 令和7年8月1日

【設置場所】 昭和医科大学烏山病院

◆「昭和医科大学における国際交流協定の締結に関する規程」制定

【制定趣旨】 国際交流協定の締結における手続きを明確にするため。

【施行日】 令和7年8月1日

◆昭和医科大学認定看護師教育センター規程」改正

【改正趣旨】

・各分野の募集状況に伴い、腎不全看護分野・感染管理分野・クリティカルケア分野の 3分野の募集定員を変更するため。

・感染管理分野・クリティカルケア分野を日本看護協会が定めている名称へ変更するため。

【施行日】 令和8年4月1日

◆保健医療学部看護学科における昭和医科大学附属

看護専門学校からの編入学者入学免除に係る 申合せ」制定

【制定趣旨】 看護専門学校の出願者確保を目的として、編入時の入学金免除制度を制定するため。

【施行日】 令和8年4月1日

昭友商事は
皆様をあらゆる面でサポートし、
貢献いたします。

☎(03) 3784-8280

昭和医科大学オリジナル商品の販売

NLローソン・タリーズコーヒー運営

各種旅行・イベント手配業務

アウトソーシングサービス ほか

昭友商事株式会社 〒142-0064 品川区旗の台1-8-16



総務課大学広報係

「SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS」
2026年2月号 (新春号)

表紙写真の募集のお知らせ



新春号の表紙を飾る写真を募集します。
皆さまからのご応募をお待ちしております。

【条件】 ◇デジタルカメラまたはスマートフォン搭載カメラで撮影されたデジタル画像 (カラー・縮小していないもの)

◇ファイル形式：JPGまたはPNG

◇画素数：短辺2,000px以上、長辺3,000px以上のもの

◇風景写真 (人物・絵画はNG)

◇自作未発表のもの

【備考】 ◇掲載時に誌面に合わせて写真をトリミング処理します

◇撮影後の写真について、合成等の過度な加工は選外になる場合がありますのでご注意ください

【応募方法・お問い合わせ】 応募写真はメールへのデータ添付、もしくはファイル転送サービスをご利用ください。

◇氏名 (ふりがな)、大学との関係 (学生・職員・卒業生など)、撮影場所を明記。 ※氏名、撮影場所を掲載しますのでご了承ください

◇送付先
学校法人昭和医科大学
総務部 総務課 大学広報係
メール：press@ofc.showa-u.ac.jp



i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

上條記念ミュージアム

【校名変更記念】企画展 「旧昭和医科大学の頃」開催！

大学の校名変更を記念して、第7回企画展「旧昭和医科大学の頃～戦後の制度改革を乗り越えた大学の発展史～」を開催します。本展では、旧昭和医科大学時代（昭和21～39年・1946～1964年）に焦点をあて、大学設立に関する行政文書や大学施設増築に関わる図面などを展示し、専門学校から大学へと旗の台地域とともに発展してきた歴史を紹介します。

【開館】

火曜日・金曜日

13:00～15:00（予約制）

【開催期間】

2025年10月3日(金)～

2026年6月30日(火)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



いつも探しています！大学や病院の歴史資料

皆さまのご自宅や勤務先に、昭和医科大学の歴史に関する資料はございませんか。

資料は「上條記念ミュージアム」にて大切に保管・展示をさせていただきます。

これらの品々は「至誠一貫」の精神で歩んできた95余年に及ぶ昭和医科大学の歴史を後世に伝える貴重な資料となる可能性があります。皆さまからのご連絡をお待ちしております。



お問い合わせ 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



昭和医科大学学生会

第72回昭和医科大学学生会総会

【日時】2025年11月29日(土) 13:00～17:00

【会場】昭和医科大学4号館およびLive配信

1. 一般演題、学位論文内容発表
2. 年次報告
3. 昭和医科大学学生会学術奨励賞授与
4. 教育講演（Live配信も行います）

演題	演者
1) 多様化する前立腺癌治療の最前線	昭和医科大学大学院医学研究科泌尿器科学分野 教授 深貝 隆志
2) 骨免疫学の新時代へ向けて	昭和医科大学大学院歯学研究科口腔生化学分野 教授 塚崎 雅之
3) 自らの肩痛に終止符を—臨床知見とエビデンスで紐解く五十肩・肩こり	昭和医科大学大学院保健医療学研究科リハビリテーション分野 教授 西中 直也

Live配信のお申込み等詳細は、昭和医科大学学生会ホームページにてご案内しています。

お問い合わせ 昭和医科大学学生会

電話：03-3784-8074

メール：gakushikai@ofc.showa-u.ac.jp



認定看護師教育センター

2026年度 昭和医科大学 認定看護師教育センター入学試験

認定看護師教育課程の受講生を募集します。

下記内容について入学試験を実施します。

【募集期間】2025年10月27日(月)～2025年11月20日(木)

【試験日程】2025年12月6日(土)

【募集分野・定員】

認定看護師教育課程 B課程	定員	認定看護師教育課程 編入学	定員
手術看護分野	16名	手術看護分野 編入学	若干名
腎不全看護分野	20名	腎不全看護分野 編入学	若干名
認知症看護分野	16名	認知症看護分野 編入学	若干名
感染管理分野	10名	感染管理分野 編入学	若干名
クリティカルケア分野	20名	クリティカルケア分野 編入学	若干名

認定看護師教育課程 特定行為研修	定員
手術看護分野 (術中麻酔管理領域パッケージ)	若干名
腎不全看護分野 (透析管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	若干名

認知症看護分野 (神経及び精神症状に係る薬剤投与関連、 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	若干名
感染管理分野 (感染に係る薬剤投与関連、 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	若干名
クリティカルケア分野 (呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連、循環動態に係る 薬剤投与関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	若干名

【受験資格】

〈共通要件〉

(1)日本国の看護師免許を有する者

(2)看護師として5年以上の実務研修を有する者（2025年12月末時点見込）

(3)各看護分野での通算3年以上の看護実績を有すること。

(4)各看護分野での5例以上の看護実績を有すること。

〈編入学〉

(1)各看護分野での特定行為研修区分別科目を修了していること。
〈特定行為研修〉

(1)各看護分野での認定看護師の資格を有する者

募集要項および詳細については、QRコードよりご確認ください。

お問い合わせ 昭和医科大学認定看護師教育センター

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-8-12

電話：03-3784-8794

メール：showanintei@nr.showa-u.ac.jp



リカレントカレッジ事務局

令和7年度昭和医科大学リカレントカレッジ 秋期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、令和7年度秋期プログラム受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は11月以降に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。 ※定員に達し次第、受付を終了いたします。

【11月開講】申込締切：10月20日(月)

プログラム名	講師(敬称略)
秋の夜長を楽しむヨガ ～ヨガの基礎理論と実践～	奥茂 敬恭
スマホで秋を撮る ～感性を豊かにする山歩(さんぽ)～	原口 省吾
生活習慣を見直して健康寿命を延ばそう！	小風 暁
海を越えた犯罪者たち ～国際犯罪の実態に迫る～	城 祐一郎

【12月開講】申込締切：11月20日(木)

プログラム名	講師(敬称略)
マインドフルネスストレス低減法(MBSR) 8週間コース	奥茂 敬恭
自ら学ぶ“自ら守る”おとなのアレルギー・アナフィラキシーショック	鈴木 慎太郎

【1月開講】申込締切：12月20日(土)

プログラム名	講師(敬称略)
楽しく高める自然治癒力 ～セルフケアで免疫力アップ～	佐々木 晶子
60歳になったら始めよう！姿勢・歩き方実践講座	岡山 知世
動きやすさを追求する！3日間実践講座 ～多関節アプローチで膝の動きを変える～	岡山 知世

【2月開講】申込締切：1月20日(火)

プログラム名	講師(敬称略)
基本から解説！スマホで楽しむ写真教室	塩田 諭司
シミュレーションで学ぶICUリハビリテーション ～体験して学び直し～	田代 尚範

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和医科大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和医科大学生活協同組合

旗の台: 3788-2322(内線)8268 アミ: 3785-9729(内線)8369
吉田: 0555-23-8505 洗足: 3787-4432 横浜: 045-985-9624

総務部

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

父母／一瀬 康弘 様、臼井 俊雄 様

同窓／貴嶋 陸博 様（医学部・29回生）、小泉 和雄 様（医学部・36回生）、医療法人 吉誠会 吉見病院 吉見 多喜男 様（医学部・39回生）、谷口 重雄 様（医学部・41回生）、菊池 隆一 様（医学部・42回生）、長井 孝太郎 様（医学部・43回生）、松井 住仁 様（医学部・45回生）、松田 博人 様（医学部・50回生）、町田 宏 様（医学部・59回生）、河岡 友和 様（医学部・68回生）、西岡 貴弘 様（医学部・69回生）、医療法人 青仁会 池田病院 様（医学部・71回生）、三科 美幸 様（医学部・75回生）、丸茂 明美 様（薬学部・8回生）、三木 裕子 様（薬学部・8回生）、西村 泰徳 様（薬学部・28回生）

職員(50音順)／飯島 裕之 様、市川 博雄 様、扇谷 芳光 様、大久保 文雄 様、木内 祐二 様、水上 拓也 様、安田 典子 様、山本 登 様
一般／アークパス技研工業株式会社 様、株式会社イワサワ 代表取締役 岩澤 昌之 様、株式会社コーゲツ 様、株式会社佐藤総合計画 様、株式会社伸栄産業 様、株式会社 タマショウ 様、株式会社 ベネフィットワン 様、株式会社メディア・プラン 代表取締役 櫻井 隆二 様、株式会社 リッツメディカル 様、山梨ヤクルト販売株式会社 様、有限会社 森井ホームサービス 取締役 森井 昭久 様

【薬学部への寄付】

父母／中川 智和 様

【昭和医科大学病院への寄付】

一般／櫻井 均 様

【昭和医科大学藤が丘病院への寄付】

同窓／戸野塚 博 様（医学部・49回生）

【昭和医科大学横浜市北部病院への寄付】

一般／古谷 征治 様

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／土岐 秀典 様（医学部・32回生）、医療法人 社団虹の会 勝野 雅弘 様（医学部・67回生）、前田 智子 様（医学部・74回生）、医療法人 社団マイスター 理事長 山下 智嗣 様（歯学部・13回生）、西村 泰徳 様（薬学部・28回生）

一般／日本中央競馬会 様

【大学主催行事への寄付】

同窓／医療法人 青仁会 池田病院 様（医学部・71回生）

【その他への寄付】

同窓／高須 克彌 様（医学部・37回生）

※収納期間：2025年6月1日～7月31日
※本学広報媒体への掲載に同意していただけた方のみといたします

お詫びと訂正

2025年8月号(第626号)のP28に掲載しました「Information」において、会社名に誤りがありました。

正しくは以下の通りです。ここにお詫びして訂正いたします。

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

野村證券株式会社 様

今号の表紙写真

表紙は、6月28日に富士吉田キャンパスで開催された「翠昭祭」の様子から。

今年度より新たに開催された「翠昭祭」は、実行委員会の学生が中心となって企画・運営されました。当日は、学生たちが8色のチームに分かれ、応援合戦や大縄跳び、リレーなどが開催され、キャンパス全体が大いに盛り上がりしました。

現在、学生たちは夏季退寮を経てキャンパスに戻り、後期のカリキュラムが始まっております。

本誌では、今後も学生生活や教育に関する取り組みを継続してご紹介してまいります。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第627号

October 2025 令和7年10月1日発行

vol. 18

[年6回発行]



学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000

〒142-8555

東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係

(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

配送停止住所変更

の登録は
こちらにお願い
いたします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。